

文化人類学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
文化人類学特論Ⅱ	災害人類学	2	BORET USAGE P ENMELLEN BORE T SEBASTIEN	2	火曜2限
文化人類学研究演習Ⅰ	文化人類学の視野と思考	2	越智 郁乃	1	月曜3限
文化人類学研究演習Ⅱ	文化人類学の視野と思考	2	包 双月	2	月曜3限
文化人類学研究実習Ⅰ	文化人類学の理論の応用 と研究の遂行	2	川口 幸大	1	水曜3限 水曜4限
文化人類学研究実習Ⅱ	文化人類学の理論の応用 と研究の遂行	2	川口 幸大	2	水曜3限 水曜4限

科目名：文化人類学特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：BORET USAGE PENMELLEN BORET SEBASTIEN

コード：LM22203, **科目ナンバリング：**LGH-CUA602J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：災害人類学

2・授業の目的と概要：本授業は、東北アジア諸国および関連地域の社会組織に対する人類学的アプローチを議論する。日本、中国、その他の近隣諸国の災害文化を背景にする。扱われる主題は、いわゆる「自然」災害と「人為的」災害の両方の災害に関連するものである。講義においては、社会的連帯、回復力、脆弱性、コミュニティなどの概念が取り上げられる。学生の数に応じて講義の後にグループ討論を実施し、最終的に全体の結論を導きます。

授業は全て対面で行います。Google Classroom Code は 「11tgal6」 になります。
Classroom

3. 学習の到達目標：学修の到達目標は、災害の文化的・社会的側面を理解していただくことです。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. 授業のイントロダクション
- II. 現代世界における災害
- III. 人類学の視点から見た災害災害
- IV. リスクと脆弱性について
- V. 減災におけるレジリエンス
- VI. 気候変動、適応、脆弱性
- VII. 災害時の社会的連絡
- VIII. 災害コミュニティの移動と移動
- IX. 災害対応のアクターとアジェンダ
- X. 災害「想像の共同体」
- XI. 犠牲者、追悼、メモリアル宗教と災害
- XII. 宗教と災害
- XIII. 東日本大震災と仏教
- XIV. 災害ツーリズム、記憶、語り部
- XV. 将来の災害文化人類学

5. 成績評価方法：レポートとクイズと出席

6. 教科書および参考書：教科書がなし。読書リスト 研究室で適宜指示する。

参考：スザンナ・M. ホフマン、アンソニー オリヴァー＝スミス（2006） 災害の人類学

7. 授業時間外学習：読書（論文とチャプター）を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。Lectures notes and written memos based on the reading (articles and chapters). Review with other students after each lecture.

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

授業は全て対面で行います。The classes will be onsite.

科目名：文化人類学研究演習Ⅰ

曜日・講時：月曜3限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：越智 郁乃

コード：LM11305, **科目ナンバリング：**LGH-CUA605J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考

2・授業の目的と概要：文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。本年のテーマ「マルチ・スピーシーズの人類学」。

3. 学習の到達目標：文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. アナ・チン『マツタケ：不確定な時代を生きる術』1
3. アナ・チン『マツタケ：不確定な時代を生きる術』2
4. アナ・チン『マツタケ：不確定な時代を生きる術』3
5. アナ・チン『マツタケ：不確定な時代を生きる術』4
6. アナ・チン『マツタケ：不確定な時代を生きる術』5
7. 『食う、食われる、食いあう：マルチスピーシーズ民族誌の思考』1
8. 『食う、食われる、食いあう：マルチスピーシーズ民族誌の思考』2
9. 『食う、食われる、食いあう：マルチスピーシーズ民族誌の思考』3
10. 『食う、食われる、食いあう：マルチスピーシーズ民族誌の思考』4
11. 『食う、食われる、食いあう：マルチスピーシーズ民族誌の思考』5
12. ダナ・ハラウェイ『伴侶種宣言——犬と人の「重要な他者性」』1
13. ダナ・ハラウェイ『伴侶種宣言——犬と人の「重要な他者性」』2
14. ダナ・ハラウェイ『伴侶種宣言——犬と人の「重要な他者性」』3
15. ダナ・ハラウェイ『伴侶種宣言——犬と人の「重要な他者性」』4

5. 成績評価方法：発表[50%]、出席と議論[50%]

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：文化人類学研究演習Ⅱ

曜日・講時：月曜3限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：包 双月

コード：LM21303, **科目ナンバリング：**LGH-CUA606J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考

2・授業の目的と概要：文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。

3. 学習の到達目標：文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. イントロダクション
2. 研究動向の整理と検討
3. 研究動向の整理と検討
4. 文献講読
5. 研究動向の整理と検討
6. 研究動向の整理と検討
7. 研究動向の整理と検討
8. 文献講読
9. 研究動向の整理と検討
10. 研究動向の整理と検討
11. 研究動向の整理と検討
12. 文献講読
13. 研究動向の整理と検討
14. 研究動向の整理と検討
15. 最終報告

5. 成績評価方法：発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学研究実習Ⅰ

曜日・講時：水曜3限、水曜4限

セメスター：1 **単位数：**2.00単位

担当教員：川口 幸大

コード：LM13305, **科目ナンバリング：**LGH-CUA608J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の理論の応用と研究の遂行

2・授業の目的と概要：文化人類学の古典から最新までの研究についての知識を獲得し、自分の研究を進展させていく

3. 学習の到達目標：文化人類学の主要かつ先端の理論についての議論を行い、それらを元に自身の研究を発展させる。理論の学習と研究の進展の成果に基づき、最終的には修士論文の研究計画書の草稿を完成させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 研究構想の発表3
- 3 人類学の萌芽
- 4 進化主義①：モルガン
- 5 進化主義②：タイラー
- 6 文化相対主義とアメリカの人類学①：ボアズ
- 7 文化相対主義アメリカの人類学②：ベネディクトとミード
- 8 機能主義①：ラドクリフ＝ブラウン
- 9 機能主義②：マリノフスキー
- 10 構造主義①：レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』
- 11 構造主義②：レヴィ＝ストロースの神話理論
- 12 象徴人類学：ダグラスとターナー
- 13 解釈人類学：ギアツ
- 14 研究計画の発表①
- 15 研究計画の発表②

5. 成績評価方法：授業での発表・発言（50%）＋研究計画書（50%）

6. 教科書および参考書：授業中に指示する

7. 授業時間外学習：毎回のテキストの予習、研究の進展状況の発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学研究実習Ⅱ

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：川口 幸大

コード：LM23305, **科目ナンバリング：**LGH-CUA609J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の理論の応用と研究の遂行

2・授業の目的と概要：これまでに学んできた文化人類学の知識を展開させ、自分の研究を進展させていく

3. 学習の到達目標：文化人類学の主要かつ先端の理論についての議論を行い、それらを元に自身の研究を発展させる。理論の学習と研究の進展の成果に基づき、最終的には修士論文の研究計画書を完成させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 研究構想の発表
- 3 ジェンダー
- 4 文化人類学批判
- 5 構築主義
- 6 公共人類学
- 7 移動
- 8 存在論
- 9 ANT
- 10 マルチスピーシーズ
- 11 文化人類学の今後
- 12 まとめ
- 13 総合討論
- 14 研究計画の発表①
- 15 研究計画の発表②

5. 成績評価方法：授業での発表・発言（50%）＋研究計画書（50%）

6. 教科書および参考書：授業中に指示する

7. 授業時間外学習：毎回のテキストの予習、研究の進展状況の発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：